

早稲田夕季のひまわり通信

12月定例会の報告です。12月6日から22日まで12月定例会が開かれました。

10月に再選された石渡徳一市長の2期目は、2人の新助役体制でスタートです。新議長に白倉重治氏、副議長には藤田紀子氏が選任されました。

★材木座地区に“遊べる公園・憩える公園”を

【質問】石渡市長は、政策の第1の柱に「子どもが元気に育つ、美しい鎌倉」を掲げています。子どもを遊ばせる公園が少ないと言われるのは、公園の数が少ないのではなく、公園の配置が偏在していることによります。街区公園(※1)は、低学年の子どもだけでも利用できる公園であり、ベビーカーを引いた若いお母さんたちや、高齢者の方たちが気軽に立ち寄れる近所の公園です。身近で遊べる遊具のある公園、近隣の人たちが憩える場として市民ニーズに応える公園を造っていただきたい。

【市長答弁】街区公園が特に少ないのは、鎌倉地区(市内全街区公園の5.8%)で、材木座や小町、大町など。子どもたちがのびのびと遊べ、お年寄りも集えるような地域コミュニティの場として利用できる公園の設置に努めます。現在、材木座地区へ街区公園の開設を検討しています。

⇒これまでは、緑の保全を目的とした、全市民向けの大規模公園が整備されてきました。市街地の公園用地取得には財政負担を伴いますが、補助金などを利用して、材木座地区に地域の人たちが共有財産として大切にできる公園の整備を要望しました。平成20年度の開園を目指していますが、どんな公園にしたいか、市民参画で計画を作り、管理や運営についても市民と協働で行なう必要があると考えます。

(※1)街区公園：半径250m圏内に1つという配置基準で、標準面積は2,500㎡



★観光都市として公衆トイレ、観光案内板の整備が遅れています

【質問】観光都市にも拘らず、清潔でバリアフリーの公衆トイレが少なく、わかりやすい観光案内板の整備が立ち遅れている状況です。世界遺産登録を目指す鎌倉の観光基盤整備として、老朽化した寺社のトイレ、ひと夏に100万人余の海水浴客が訪れる海岸のトイレの改修を早急に進めていただきたい。

利用者の一部負担とマナー向上のために、有料化も検討する必要があるのでは？

【部長答弁】来年度から鎌倉宮や報国寺、材木座海岸や由比ガ浜海岸などの改修を順次進めていきます。北鎌倉明月院近くの踏切脇の市有地に、民間活力も視野に入れて、トイレを併設した休憩施設の早期実現に向けて取り組みたい。

案内板については昨年、多言語化に取り組んでいます(ルート板で2カ所、天園ハイキングコース内の案内板4カ所)。今年度は、鎌倉駅東口に多言語を入れた総合案内板を設置する準備を進めています。



⇒コンビニなど民間にトイレの一般使用をお願いする一方で、生涯学習センターや体育館など、公共施設の積極的な周知をする必要があります。また、観光に関わるごみ処理、公衆トイレや観光案内板の整備などについて、観光客にも応分負担を求めるべきであるという議論もあります。観光プリペイドカードや協力金シールなどについて検討し、観光施設整備という目的を明確にした収入確保を考え、整備の充実を図ることが課題です。

○ 市観光案内図 12月号から掲載されています

9月、12月定例会で質問 ★来年度、不登校の子どもたちのためのフリースペースを開設します！

【質問】本市では、中学校全校にスクールカウンセラーが配置されていますが、まだ小学校には配置されていません。不登校児童・生徒や家族を訪問する相談体制の拡充について伺います。

【部長答弁】小学校の不登校対策として、中学校のスクールカウンセラーを活用しているのは2校だけなので、今後他の小学校にも図っていききたい。現在県から派遣されているSSN訪問相談員のほかに、今後市費で教育相談指導員を増員して、2名体制で訪問相談を強化していききたい。

【質問】学校外のフリースペース開設に向けた、具体的な方向性について再度質問します(9月定例会で質問)。

【教育長答弁】学校というだけで行くことができない、引きこもり状態にある子どもたちへの居場所が必要。用地確保に努めてきたところ、やっと既存の施設を活用する中で、来年度鎌倉地区に学校外のフリースペースを開設する予定となりました。対人関係の広がりを目指し、自宅から踏み出す第一歩となるように整備していききたい。

⇒ 長年の懸案事項であった、フリースペース開設に道筋が付いたということは、大変うれしいことです！

県下には、川崎市の公設民営のフリースペースのようにユニークな施設もあります。逗子市の適応指導教室「なぎさ」では、公募の市民約20人がボランティアに登録して、美術、工芸、スポーツを教えたり、自然な形で交流をしています。スタッフだけでなく多くの市民の協力を得て、たくさんの見守りの中で、人と人との関わりや体験を積み重ねる場となるように要望しました。

今後は、子どもたちや家庭の複雑な問題により充実した相談体制を図るため、女性相談、人権相談なども含めた教育センター施設の併設が望まれます。



募集しています 地域の底力！

あなたの地元で起こっていること、
地元自慢、地域の名物おじいちゃん・
おばあちゃん、あなたのお困りごと、
その他なんでもお寄せください。
あなたの底力をお待ちしています！

《早稲田夕季プロフィール》

- 白百合学園小・中・高校、早稲田大学法学部卒業
- 日本輸出入銀行・地元ミニコミ紙記者・自宅で学習指導
- 早稲田大学鎌倉校友会・鎌倉日仏協会・鎌倉同人会
ベルの会・鎌倉風致保存会・逗子鎌倉の中世遺産を考える会
カトリック雪ノ下教会に所属

総務常任委員会・議会運営委員会・決算委員会

【連絡先】 早稲田夕季 後援会 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-12-10 TEL&FAX 0467-24-9371
ホームページ : <http://www.geocities.jp/yjhxp208> メールアドレス : yjhxp208@ybb.ne.jp

私たち民主党は、国の補助金を廃止して、その財源を地方に移譲し、日本を分権型国家にすべきだと考えています。地方自治体への財源と権限の移譲によって、国からの押しつけによる無駄な公共事業がなくなり、私たちの納めた税金をほんとうに地域に必要な事業のために使えるようになります。

地域住民と地方議会と行政が一緒になって財源の有効活用を考えていくことによって、地域のことは地域が「自ら考え、自ら決める」という自立と責任の精神が地域社会のなかに育まれていくにちがいないと私たちは考えています。そして、地域の発展を自ら背負っているという意識は、地域を愛する心を育て、その心が、国を思う心につながっていくものと確信しています。

しかし、国の補助金を廃止しても、県が国に代わって市町村に補助金を配分する役割を担うというのは、ほんとうの地方分権とはいえません。真の分権型国家をつくるために、抜本的な行政改革を実現するために、いまこそ都道府県制度を見直していくべきです。

真の地方分権は、

都道府県の解体・再構築から

民主党神奈川県第4区総支部幹事長

深田 独ひとり

